

(11) 生態系ネットワーク修復による持続的な沿岸漁業生産技術の開発（カレイ類）

予算

農林水産省：農林技術会議プロジェクト研究

概要

本事業では水産研究・教育機構および各県・大学と連携して、カレイ類が各生活史段階で利用する生息環境間の繋がりを明らかにし、再生産の阻害要因と好適な生息環境を特定、分断を修復する技術を構築する。さらに、繋がりの再構築と復元力強化に向けた新たな資源管理手法を開発する。

平成29年度はデータロガーを装着したマコガレイの回収を試みたが、回収することは出来なかった。また、大阪湾内のマコガレイの移動を解析するのに必要な情報の収集と整理のため、昨年度に引き続き小型底曳網による大阪湾全域調査、大阪湾沿岸におけるそりネット調査を行った。

これまでの情報をまとめて解析を行った結果、大阪湾の浮遊仔魚の2割程度が播磨灘から移入していると考えられたが、0歳魚の生き残りが他の海域に比べて低く、資源が低迷していることが示唆された。この結果をもとに、マコガレイを増やしていくために必要な情報と方法を記載した漁業者向けパンフレットを作成した。

担当者

大美博昭、辻村浩隆、山中智之